

ファン・ゴッホ美術館ってどんな場所？



現在のファン・ゴッホ美術館 2015年撮影



ファン・ゴッホ美術館建設現場のフィンセント・ウィレム、1970年 ©unknown

オランダのアムステルダムにあるファン・ゴッホ美術館は、1973年にオープンしました。フィンセントの芸術を世界に伝えたいという家族の思いから生まれました。そして、この美術館をつくるために力をそそいだのが、弟テオとヨーの息子、フィンセント・ウィレムです。家族が受け継いだフィンセントの約700点もの作品が所蔵されていて、世界中の人が訪れる場所です。フィンセントの作品だけではなく、彼がテオに宛てた手紙や、兄弟でコレクションしたほかの画家の作品、フィンセントが集めた日本の浮世絵など、関係する作品や資料もたくさんあり、多くの研究者も集まる場所です。

ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢

【会期】2026年1月3日(土)ー3月23日(月)
 【休館日】1月5日(月)、1月19日(月)、2月2日(月)、2月16日(月)、3月2日(月)、3月16日(月)
 【開館時間】午前10時〜午後6時、金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)
 【会場】愛知県美術館 〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1丁目13-2
 | 公式サイト | <https://gogh2025-26.jp>
 | 展覧会公式 SNS | @gogh2025_26
 | お問い合わせ | 050-5541-8600(ハローダイヤル) 午前9時〜午後8時(年中無休)

主催: 愛知県美術館、NHK名古屋放送局、NHKエンタープライズ中部、中日新聞社 協賛: NISSHA
 後援: オランダ王国大使館、JR東海 協力: KLMオランダ航空

観覧料(税込み): 一般 2,000円(1,800円) / 高大生 1,300円(1,100円) / 中学生以下無料

※(*)内は通常前売の料金です。※団体料金はありません。※本展のチケットで会期中に限り、愛知県美術館のコレクション展もご覧いただけます。※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳(愛護手帳)、特定医療費受給者証(指定難病)のいずれかをお持ちの方は、通常料金の半額でご観覧いただけます。また付き添いの方は、各種手帳(「第1種」もしくは「1級」)または特定医療費受給者証(指定難病)をお持ちの場合、いずれも1名まで通常料金の半額でご観覧いただけます。チケットをお買い求めいただき、当日会場で各種手帳(ミライID可)または特定医療費受給者証(指定難病)をご提示ください。付き添いの方は申し出てください。※学生・生徒の方は当日会場で学生証(生徒手帳)をご提示ください。※複数の割引の併用はできません。※展覧会特設ショップへの入場にも展覧会チケットが必要です。※館内に大型のリチウムイオン電池(電動アシスト自転車用サイズ以上)を持ち込むことはできません。(電動車椅子の乗り入れは可) いかなる理由でも、主催者の責によらないチケットご購入後のキャンセル、払い戻し及び券種の変更はできません。あらかじめご了承ください。

美術館の4つの約束

- 美術館にある作品は、みんなの大切な宝物です。
- 走らずにゆっくり歩く
 - 作品やケースにはさわらずに目で楽しむ
 - メモを取るときは鉛筆を使おう
 - お話する時は小さな声で

NHK番組情報

「まるっと!」を見れば東海3県の「きょう」がわかる! あなたの「あす」が変わる!



「まるっと!ミュージアム」では、東海地方で話題の展覧会を学芸員の資格をもつカトリナこと加藤里奈さんが独自の視点でお伝えます。(月1回放送)

平日 午後6:10<東海3県向け>午後6:30から各県別>

※NHKの新しいインターネットサービス「NHK ONE」で見逃し配信(放送後1週間)があります。

「アートも歌もダンスも!」



The Wakey Show

NHK Eテレ

月〜金 午前7:00〜7:20
 再 午後5:10〜5:30

NHK Eテレで放送している、登校前の小学生に向けたおめざめ番組。ゲーム、ダンス、音楽ライブ、料理、コント、まち探検、英語の発音など、ココロとカラダをWake Upさせる楽しいコーナーが満載!



いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE

詳しい情報はここから <https://nhk.jp/nhkone>





画家フィンセント・ファン・ゴッホの足跡をたどろう

1 オランダ



フィンセント・ファン・ゴッホ《女性の顔》1885年4月 油彩、カンヴァス

はじめりの場所

フィンセントは1853年オランダに生まれました。画家になろうと決めたのは27歳のときでした。最初の3年間はスケッチの練習をたくさんし、その後油絵を描き始めます。農民の絵をよく描き、この絵もその一つです。赤と緑の色の組み合わせなど、暗い画面の中にも工夫のあとが見えます。

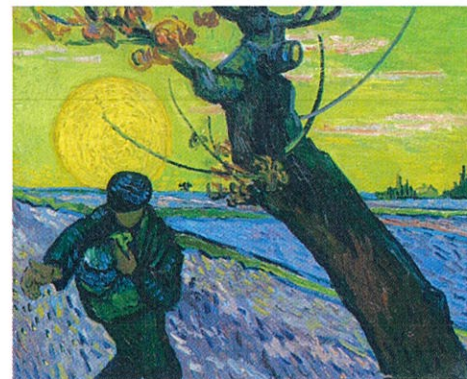
2 パリ 新しいスタイルと出会う街



フィンセント・ファン・ゴッホ《モンマルトル・風車と菜園》1887年3-4月 油彩、カンヴァス

1886年、フランスのパリに移り住みます。自分の絵が時代に合っていないと気づき、明るい色や新しい描き方を学んで、新しいスタイルを見つけました。フィンセントは大会にいても、自然のあるモンマルトルを好み、この絵では春の畑で働く人々を、明るい色でやさしく描いています。

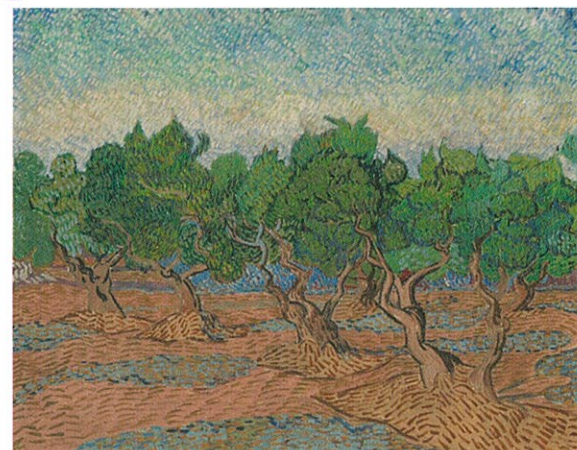
3 アルル 光と色を見つけた地



フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》1888年11月 油彩、カンヴァス

1888年、南フランスのアルルへ引っ越し、南フランスのまばゆい光とあざやかな色彩を体験して、色づかいや筆づかいが力強くなりました。この絵では、画家ミレーの《種まく人》をまねて、自分なりの表現で工夫し、秋の夕暮れをしずかに描いています。

4 サン＝レミ 心と向き合った場所



フィンセント・ファン・ゴッホ《オリーブ園》1889年11月 油彩、カンヴァス

1889年にはサン＝レミの療養院に入院しますが、絵を描き続け、独自の表現を完成させます。オリーブの木が南フランスをよく表すものと考えて、オリーブ園の絵をたくさん描きました。テオ宛ての手紙にも、寒くてもきれいな日ざしの中で作品を描いたことを書いています。この絵では、オリーブの木がリズムよくならび、短い線をたくさん使って描かれています。

5 オーヴェール＝シュル＝オワーズ

最後の筆あと

1890年、フィンセントはパリ近くの町オーヴェールへ移り住みます。新しい表現に挑戦し、この作品ではわらび屋根の家と人々を力強い筆づかいで描きました。心の病気に苦しみ、同年7月、自ら命をたちます。絵を描いたのは約10年間ですが、多くの作品がファン・ゴッホ美術館にのこされています。



フィンセント・ファン・ゴッホ《農家》1890年5-6月 油彩、カンヴァス

